



414
A/670
3

圖書印

討清記事抄譯

支那国ト歐羅巴政府ノ間其文際上不和ヲ生
スルノ日既ニ久シ其不知タル事由ハ皆ノ置
テ今直ニ千八百五十七年ニ移リ及那政府
ト英国及ヒ佛国トノ間益異議ノ事起リ止ム
事ヲ得ス英佛ニ於テ廣東ヲ攻取セシ事ニ至
リ此挙ヨリ後千八百六十年出兵ノ事ニ至リ
タレハ則其原由ヲ茲ニ解出スヘナリ
千八百五十七年十二月二十九日英佛ノ海兵
ニテ廣東ヲ攻取リシ後千交戦国トノ間互ニ和

大正十一年四月

大正十一年四月
侯爵郵寄贈

31



睦ヲ取結ハニ事ノ示談ニ涉リ廣東廣西兩所ノ
總督葉工ト我使臣即チ英國ロルトト稱等工ルキ
ト佛国ハロングロト共ニ和睦條約ノ艸案
ヲ既ニ決定セシニ豈計ラニヤ兩廣ノ總督ノ專
断ノ故ヲ以テ支那政府ヨリ罰ヲ蒙リ之ヲ為シ
ニ其總督ニ代リテ談判ヲ為スヘキ官支トベトケ
ト差越シタリ然ルニ支那交際上ノ常トシテ
動モスレハ因循怙息ニ涉ルヲ以テ佛英ノ使臣
之ヲ耐忍スル能ハスレテ若猶因循シテ事ヲ決
スルニ至ラカレハ再ヒ戦闘ニ及ハニ事ヲ支那

3
2

政府ノ全權 言ヒ送レリ其切迫セル機會ニ於
テ大ニ騷擾シヘトケトヨリ其政府ハ迫レノ事
故ヲ以テ再ヒ延期ヲ乞ヒシニ英佛之ヲ若シ
ニ因テ六月九日支那貴重ノ官吏桂良及ヒ花
沙納ウト稱スル者兩人到差セリ是ニ於テ其官吏
ト一兩回應接ニ及ヒタルニ支那政府ノ官吏
送ルニ全ク時間ヲ延サニカ為ノ計策ニシテ事
ノ決スル目途アラサルヲ我使臣ニ於テ悟リ
断然和談ヲ破リ再ヒ軍ヲ發シテ北河ノ炮
臺ヲ襲撃シ終ニ之ヲ略取セリ支那政府於テハ此

審也 官務局

處置^ニ懼レ大ニ悔悟シ初テ眼目ヲ閉^ク言^フ食
ムノ弊習ヲ除去シ六月廿七日ニ至リテ和睦條
約ヲ天津ニ於テ取結ヒタリ其結約ノ條款中ニ
本條約交換ノ時ハ同盟英佛ノ使臣ヲ北京ニ於
テ接遇スヘキ事ヲ記載セリ此式礼ヲ行^ハル
ル迄凡一年間ノ時期ヲ費ヤシ遂ニ千八百五十
九年六月ニ至ツテ漸ク其用意整ヒ佛國公使^ヲ
ブールブーロニ氏軍艦^ヲデコシ^シトタニ英
國公使^ヲエムフロス氏ハ軍艦^ヲマジレシ^シ兼シ
佛^ノ軍艦^ヲサンガリ^シ及ヒ英^ノ軍艦^ヲコロマ

ろ

ル^テシ^テ海軍大將^トホ^リプ^ト總括^シテ^テ突艦^ト其他
蒸氣船七艘炮船十艘運送船二艘之ヲ護衛シ北
京ヘ向テ進航セリ六月二十日客歲攻取リ^シ
ペイホ^リノ炮臺^ニ近ケ^ル此炮臺ハ天津ノ條約
以來支那人ヘ引渡セシモノニシテ支那人則チ
ペイホ^リノ河口ニ臨^ミ之ヲ守護セリ我^ノ使臣
等此河口ヲ徑テ北京ニ登ラサルヲ得^ル故ニ豫
ノ使臣ノ上京スル事ヲ報知ニ及ヒ約諾ヲ爲シ
タルモノナ^リハ其河口必ス路ヲ開^キ待ツヘキ
ハ当然ナリ然ルニ支那政府ノ意見變異セシカ

審也 官務局

或ハ炮臺ノ指揮官ニ於テ政府ノ命ニ背キシカ
又ハ我カ使臣ノ引率セル兵多勢ニシテ當然
使臣ノ警衛ニ過キ其刻入ヲ得サルト指揮官
考ヘシカ其河口ヲ鎖シ到着ノ際通航スルヲ許サ
ズ是ニ於テ紛擾又起リ支那人ノ弊習再發シ宜
シク談論ノ為メニ時日ヲ費ヤシ終ニ事ノ結局
ニ至ラサルヲ計リ力勢ヲ以テ之ヲ破ル外策無
シト決セリ且海軍將ホーブ氏請ヘラケテ江ノ
破ルニ今引率セル軍勢充分ナリト力チ二十二
日其路ヲ開カニテ支那へ言ニ送リシニ何

3 4

タハ不答モ無キニ因リ直チニ其軍勢ヲ整ヘタ
リ
二十三日二十四日ハ其軍備ニ日ヲ送リ
支那人ハベイホーノ炮臺ヲ受取りニ以來嚴密
ニ防禦ノ道ヲ尽シ敵兵ヲ防クノ功ヲ全クセリ
加之炮臺月下ノ河口ハ三匝ニ柵ヲ築キ敵船ノ
進入ヲ鎖セリ其第一柵ハ鉄ノ大イナハ柱ヲ以
テシ第二柵ハ河底ハ大材ヲ以テ作りタル杭ヲ
連チシ鉄鎖ヲ以テ結合セリ第三柵ハ第二柵ト
同シク大材ヲ鉄鎖ニテ連合セシ大ヒナル筏ヲ

各也 百 局

以テ河ロヲ塞キタリ且第ニ第ニノ柵ヲ結合セ
 シ鉄領ハ兩岸ノ河底へ深ク沈メタル大碇へ接
 續シ實ニ堅固ヲ極メタリト云フヘシ
 右ノ堅固ナル形状ヲ見ルト雖モ英國海軍將ニ
 於テハ之ヲ事トモセス二十三日「フルザル」
 一船ヲ柵ニ向テ進航セシメ二十四日二十五日
 ノ兩日英國ノ端船數艘ニテ第一柵ヲ破リ幸ニ
 支那人ノ妨ケ無クシテ第二柵ヲ取毀テ柵ヲ將
 ニ央ニ至ラントスルニ及ビヘナリノ鎮臺ヨリ
 英將ニ單曉ヘ去ルニ十日ノ返答書ヲ差越セリ

三五

其邊ニ於テ敵方ノ意見依然トシテ奮ノ如ク
 ナレ、海軍將ニ於テ既ニ取掛リシ事業ヲ益盛
 ニセントシ「プロウ」ルニ策シオツ「ソ」ハ柵ヲ
 引卒シ蒸氣ノカニ以テ第一柵ノ杭ヲ押倒ント
 シ其兩船ヲ第一柵ニ進入セリ
 此時迄未タ発炮セサリシ「ペイホ」ノ砲臺ヨリ
 一時ニ発炮其彈丸右兩艘へお掛ケル事惣敷止
 ムヲ得ス海軍將之レヲ捨テ佛軍艦ヲ揮キコル
 指揮官ニ「サ」ノ端船ニテ其身ヲコルモラ
 シ船ニ避ケタリ尋テ双方ノ発炮益烈敷然レ共

不幸ニシテ其力等シカラス同盟ノ船艦ハ第一
柵ト第二柵ノ間ニアリテ敵方ヨリホツ知ノ彈
丸ハ悉ク其適宜ヲ得敵ニ放テハ石垣ノ内ニア
レハ身方ヨリ空スル彈丸ハ敵兵石垣ノ内ニア
ルヲ以テ拾別ノ害ヲ為サス故ニ日没ニ至リ予
方ノ軍兵既ニ保々難ク襲攻スルトモ無益ニ属
シタリ因テ上陸ニ事決スト雖モ炮臺ヘ到ル
ノ通路難場ナル故ニ實ニ至難ノ事業ナリ然レ
敢テ其功ヲ養サン事ヲ計リ「フヤガ」口ト「テイ」リコ
「ハ」ハ船將此指揮ヲ擔任シ剛勇精銳ノ兵卒ヲ

る
6

卒ニ炮臺ヨリホツ知ノ彈丸霰々如キヲ射シ
テ進撃セリ既ニ炮臺ノ石垣ニ近寄テ彙入ラン
トシ暫ク争ヒシカトモ小勢ナルカ故ヲ以テ終
ニ彙取ル事能ハス止ムヲ得ス退軍セリ此日ノ
死傷夥敷英國海陸兵四百五十人ノ死傷ニテ其
中海軍將「ホー」フ佛兵十五人并指揮官「テイ」リコト
トモ重傷ヲ被レリ
敵ノ彈丸ノ為沉没セシ炮艦三艘ノ外ニ船鎧ノ
損所甚タ多ク且小勢ヲ以テ再撃ヲ為スヘキ勢
ニ無キヲ見テ上海ヘ引取レリ英國ニ放テハ此

卷也 百務局

大敗ヲ聞キ是迄支那人ハ軍事ニ馴レサル弱兵
ナル事ヲ慮リ居タリシニ豈計ラシク今固ノ大敗
ヲ聞キ大ニ人心^驚及^意ヲ生セリ佛國ニテハ
右不幸ノ事ニ一味セシト雖モ兵隊ノ小勢ナル
カ故英國ノ如キ憂患ヲ生セス然レモ之カ為高
激スルモノ多ク終ニ再ヒ出兵ノ事ニ到レリ此
一軍ハ英國ノ旗章ニ對シ大ニ恥辱ヲ受タリ佛
國ハ全ク軍艦一艘ニテモ和親ノ月途ヲ遂ニ為
ニ出發シテ此戰鬪ニ加ハリ其害ヲ受タレハ是
亦佛國ノ旗章ニ對シ恥辱ヲ雪カン為ニ出兵セ

ろ
7

サレテ待スト國民一般ノ論說ニ因リ支那ヲ征
スルノ協議決定セリ
遠隔ノ地へ海陸軍ヲ發スル事ハ一般ノ人民思
考スルヨリモ實ニ至難ニテ元帥ノ人撰兵卒ノ
強弱臨機ノ要分及ヒ現場ノ爭論鎮靜等ノ為メ
明瞭ナル命令状及ヒ養生ノ法運送スルキ各種
ノ品位斤量等總テ巨細ニ熟考シ最^モ經驗上^ヲ計
施^シテ預メ算定セサルヲ得ス然レ共前章ノ事業
ノ如キ同盟國ト共ニ平ヲ計ラントスル時ハ互
シク互ニ協議ヲ遂ケサルヲ得ス伊國ニ於テハ

卷也 百務局

此般支那へ出兵ノ事ハ英國ト共ニ憂害ヲ平拘
分賦セント決定セシテ英國ニ於テハ佛國政府
ト人負ノ數ヲ同フセン事ヲ欲セサルナリ其故
ハ是迄前書ノ如キ遠地ニ於テ英國ノ威勢ヲ振
ビシテ尚存在セン事ヲ欲シ若佛國ノ兵卒多數
ナル時ハ英國ノ威ヲ落サン事ヲ恐レ居タルニ
果シテ佛國ノ兵英國ニテ出サントスル兵ヨリ
多勢ナリシカハ之ヲ英國政府ニテ拒ミタリ佛
國政府ニ於テモ英國ト和親ヲ保全セシ事ヲ計
リ上ハヲ得ス既ニ支那ニ送ルヘキ兵隊ノ數ヲ

ろ
ろ

減サシ英國ノ望ニ從ヘリ
前文ニ云フ如ク佛國政府ニテハ既ニ充分ノ兵
勢ヲ支那へ送ラント決シ「ス」ノ新兵四聯
隊及ヒ^{義勇}兵^{募分}ヲ擧リ其他白耳義國政府ノ望ニ
ニ應シ同國精銳ノ兵卒千人ヲ合シ總計一萬五
千人ヨリ一萬八千人ノ人員ヲ棄セントセシニ
同盟ノ英國ニテハ此擧ヲ以テ過當ノ大勢ナリ
トセルカ故ニ佛國政府ニ於テ其人員ヲ減少セ
リ乃チ兵員ノ數兩國ノ間ニ合議ヲ定メ共ニ出
兵ノ備ヘテ促カセリ此時佛國ノ軍ハ速ニ整備

セリ

陸軍卿ヨリ随意従軍ノ布告ヲ出セシニ佛國ノ
 兵隊四分通ハ皆隨軍ノ事ヲ願ヘリ兵隊中ノ騷
 キ甚敷其内ニ於テ歩兵ニブリガートヲ撰出ス
 ルニ大ニ困却セリ此人員ハニケ年余ノ勤期ア
 ルモノ、内ヨリ撰ミタリ其故ハ戦争ノ期限允
 ニケ年間ト見積リシナリ其軍悉ク整備シ元帥
 一人ノ人撰ヲ為スノ一事ト為シタリ然ルニ陸
 軍將^中元帥ヲ人撰スルハ最難ク終ニ國章^帝ニ於
 テ陸軍將モ利トシ^ルバ^シヲ擧ケテ元帥トセリ是則

37

以前^中亞利加ニ於テ有名ナル四將ニシテ千八
 百五十九年十一月十三日今般出兵ノ海陸軍ノ
 總指揮ヲ委任セリ

今般出兵人員巨細ノ表ヲ記載スル以前ニ政府
 ニテ遠隔ノ地ヘ赴キ永ク滞陣スルカ為兵士ヘ
 増給ヲ與ヘン事ヲ決シ上等士官ヘ上陸中二日
 十二フランク中等士官ヘ同ク九フランクアシ
 ユタン官ヘ四フランク五十サンケム兵卒ヘ巴
 里斯ノ給三十サンケム宛ヲ増加セリ右増給ノ
 外ニ佛國ヘ歸陣ノ上ハ願ノ者ヘ一ケ年ノ休暇

ヲ典ヘン事ヲ許シ又佛国へ帰陣ノ上ハ賞義金
ヲ多ク典エン事ヲ許セリ

人ノ勵ヲ起シ且功ヲ賞スルカ為元帥及總テ欠
員ヲ命スルノ權ヲ有セリ尤モゴロ子ル、リエーテ

ナントゴロ子ル及ヒスーリエーテナント官ノ儀
ハ国帝へ奏聞ヲ経テ初テ羅實際施行モノトスル

前々云ヘル歩兵ニブリカードノ結成ハ尤ノ如
シ

惣人員

311

歩兵 五千五百十人

砲兵 千二百人

セニ 三百人

騎兵 五十人

用度方兵卒 二百二十人

医師附屬 八十人

運送方 百二十人

總計七千四百八十人

但此中ニ士官ハ筆入セス

大炮 三十挺 内十三ポント十二挺 四ポント十二挺 野戰砲六挺

各務局

三

此小軍ハツロロニ港ニテ乗組ムヘキナリ因テ
 十二月末ニ元帥此乗組ヲ検査セシカカ考メ其港
 へ出張シ夫々調査セシニ支那迄六千里ノ間ヲ
 赴クヘキ兵士ノ港ニ入ルヘキ場所喜望峰一ヶ
 所外無キヲ聞キ海路ニ馴レサル陸軍兵ノ
 保護ニ関係スヘキ事ヲ元帥モントマニ第一ニ
 之ヲ憂ヒ夫々調査ノ上其事ヲ海軍へ掛合ニ
 海軍ニ於テハ更ニ此議ニ関係セス依テ陸軍卿
 へ其事ヲ稟申セシニ則陸軍卿海軍卿及ヒ外務
 卿共ニ協議ヲ尽セリ外務卿ノ曰ク佛国ノ兵士

ハ少シク暴ナレハ佛国領ニアラサル土地へ上
 陸シ其人民等ト争鬪ソ生スル時ハ交際上ニ関
 係スルカ故ニ異存ナリト之カ為メニ論議一決
 セス遂ニ国帝ノ裁断ヲ乞ヒシニ国帝ニ於テコ
 ロ子ルエタリマジョー官カストハノ一ニ全権
 ヲ與ヘテ其港へ出張セシメタリ其者元帥モン
 トー^{ハバ}ンノ稟議ノ正理ナルヲ見テ断然決意
 シ雷奥運送ニ充テタルヲレイニテキリッフル
 船ニ三百人ヲ分チ乗セ其餘タネリフ^{地名}或ハゴ
 レ^上内ニテ入津シ夫ヨリ喜望峰及ヒ^{地名}シニカボ

312

ル香港へ入港スヘキ事ニ裁決セリ故ニ港へ
 入ル^ルナク最モ永キ航海ハ喜望峰ヨリ^シシガ
 ホ^ルル^迄ノ間天ヲ天氣悪シト魚モニヶ月ハ
 越ユヘカラス依テ大ニ兵士ノ壯健保養スルノ
 策立チ悉ク用意整ヒタルニ因テ千八百五十九
 年十二月五日左ノ諸船ツ^リロ^ン港ヲ出帆セリ
 ラントルプラナント船
 ラヂイヤード船
 レジユラ船
 ラニエーウル

蕃地事務局

右の如し

レカルツト

エガロン

レライン

リセトル

千八百六十年第一月出帆ノ諸船

五日 ラ、レインテ、キリツポル

十日 レ、デユペルレ

十日 ス、ットン隊、アレスト港

ロ、ン船、出帆セリ同時ニ海兵、ラ、フ、ル

ラ、グ、レ、チ、ヤ、ン、ス、ラ、ペ、ル、セ、ウ、ラ、ン、

○

